



『仮設住宅 その10年』

—陸前高田における被災者の暮らし—

御茶の水書房 六五〇〇円＋税
宮城孝・山本俊哉・神谷秀美・陸前高田
地域再生支援研究プロジェクト編著

陸前高田に根ざして

岩手県の東南端陸前高田市。東日本大地震大津波では、市内の九割の世帯が被災した。ほぼ半分は住宅全壊であった。三月二十六日には応急仮設住宅の入居受付開始。それから一〇年が経つ。岩手、宮城の仮設住宅はこの三月で「解消」とすると



グラビア	地域を支える人 片岡良輔さん・和歌山県田辺市	1
発掘!地域の希望のタネ	〈La・La・shine〉誕生 北海道仁木町	4
給食のじかん	〈伊勢うどん〉 & 〈あいませ〉・三重県伊勢市 堀本早穂	6
書評	宮城孝・山本俊哉・神谷秀美・陸前高田地域再生支援研究プロジェクト編著 『仮設住宅 その10年—陸前高田における被災者の暮らし—』 菅原敏夫	8
焦点	トリチウム汚染処理水の海洋放出の行方 木野龍逸	10

特集 3・11から10年——防災の今

座談会	東日本大震災の被災地から2011→2021	前田伸吾+大崎勝弘+小野寺伸浩+林 鉄兵	16
	被災時における自治体間支援	本莊雄一	26
	東日本大震災の教訓と自治体業務継続計画の課題 —岩手県大槌町の災害教訓に学ぶ	吉川忠寛	34
	荒ぶる自然とどう共生したらいいの? —「民衆の自然観」と「国家の自然観」のもやい直し!	大熊 孝	44
	コミュニティ防災とソーシャル・キャピタル —地区防災計画づくりの四つの事例から	金 思穎	55
各県自治研活動レポート	「つながり」——長野県の自治研活動について 長野県本部	鈴木章彦	64
連載	『月刊自治研』を読む 最終回● 連載をふりかえって (後編)	篠田 徹	66
	自治研センターの機関誌案内		75
	次号予告・編集部から		76

いう。(福島県では未だに九〇〇人を超える人が仮設に暮らす。)

長引く仮設暮らしと仮設団地の集約で、仮設から仮設への転居を余儀なくされる人も多数出た。岩手県最後の仮設住宅はたまたま陸前高田のものだ。

一年五月、法政大、明治大、中央大などの研究者・実務家、後には学生までもが参加する、避難所仮設住宅の生活状況に関する調査プロジェクトが発足する。住民アンケート、自治会長インタビューを十数次にわたって行い、調査結果をまとめる。調査だけではない。住民に伴走し、相談にのり、助言し、提案する。陸前高田に深く根ざし、長期にわたって、大所帯のチームが活動を続けた。類例を見ない。本書はその一〇年目のまとめだ。人と生活全部を

仮設住宅の性能、コミュニティの再生、集会所、心と体の健康、家族を失った悲しみのケア、行政計画の検討と批判、外

部支援のあり方と反省、「逃げ地図」づくり。読者に正確に伝えるために、図表写真が一八九点、分量は抑えきれず、紙質を選び、その結果、厚く重く高価になった。いま仕方ないと思える。たくさんの手間と時間がかかった。編者の一人宮城孝の報告は、はじめ『月刊自治研』一年一二月号「復興の主体は誰か」と題して掲載されている。

「仮設さへ行がね」
陸前高田が舞台、主人公が「仮設さへ行がね」と叫ぶドキュメンタリー映画「先祖になる」(池谷薫監督二〇一三年公開)が、震災一〇年の節目にオンラインでも上映されるそうだ。

関連の書籍二冊のご案内。今井照・自治総研編『原発事故 自治体からの証言』(ちくま新書)。今井照・朝日新聞福島総局編著『原発避難者「心の軌跡」—実態調査10年の〈全〉記録』(公人の友社)。
評者 菅原敏夫 本誌編集委員